

# はくぶつかんの 部屋 5

～地域・学校とのつながり～



博物館の仕事といえば、多くの方が、資料の収集や保存、展示会の開催といったものを思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、博物館の仕事はそれだけではありません。博物館の仕事は、

①資料の収集、②整理・保存、③調査・研究、④教育普及活動の4つで構成されています。今回の「はくぶつかんの部屋」では、4つの仕事の中から、当館が行っている教育普及活動について紹介します。

当博物館では、宜野湾市の歴史や文化、自然などを多くの方に学んでもらうために、毎年6月～2月までの9ヶ月間、子供向け「わらばく体験じゅく」や、大人向け「博物館市民講座」等を開催しています。

「わらばく体験じゅく」では、市内の小学5、6年の30名の塾生と活動します。本市の特産品である田イモの植え付けや収穫、昔のおもち作りなど、実際に見たり触れたりする体験を通して、地域との結びつきを深めながら、他校の生徒たちと本市について学んでもらうことを目的としています。

また「博物館市民講座」では、歴史・

自然・考古・民俗といった学問分野を通して、本市の特色や魅力が分かる室内・野外講座を開催しています。写真や文献だけではなく、実際に話を聞き、現場を見ることで、多くの方に本市について学んでもらえたらと考えています。

その他にも、学校側の授業内容に合わせて、昔の道具に触れながら学ぶ「体験学習」や、学校へ直接出向いて講座を行う「出前講座」にも取り組んでいます。また「博物館友の会」も発足し、活動を行っています。

地域との結びつきや、伝統的な文化、歴史などへの関心が希薄になりつつある今、地域の歴史や文化を見つめなおし、地域の人々との結びつきを深めるきっかけづくりとして、博物館の講座や体験学習、「博物館友の会」に参加してみたいかがでしょうか。



→わらばく体験塾で  
のタイモ植え付け  
→博物館市民講座

## お問い合わせ

市立博物館 ☎870-9317

## 茶

# わーゆんたく

92

## トウシヌユルは千冬万来!?

早いもので師走となりました。そこで今年のは年の夜（大晦日）に関する民話や行事などを紹介します。

大歳（大晦日）に一夜の宿を願う来訪者をこころよく迎え入れると、福徳がもたらされる。という「大歳の客」と呼ばれる民話があります。大謝名の例をあげると、『むかし大晦日の晩に、旅人が一夜の宿をお願いしました。そこは貧しいおじいさんとおばあさんの二人暮らしだったので、気持ちよく中へ入れてあげました。喜んだ旅人（実は神様）が大謝名は水が豊富に出るように」と言ったので、今でも水が豊富なのです』というものです。



▲豊富な水の大謝名メーヌカー

この「大歳の客」は宜野湾のほとんどの地域で伝えられています。例えば、来訪者である神様が老夫婦や旅のお坊さんの姿などであったり、または福徳がお金やご馳走だったり、貧しいおじいさんとおばあさんが若返ったりします。

また、神山での例にはその続きがあります。『翌年の大晦日に「今年も来てください」

と、家の四隅と真ん中の五か所にご飯を置くとネズミが出てきて、「チユーチュー」と良い鳴き方（※）をして、ご飯を食べました。それを見て、昨年は老夫婦の姿だった神様が、今年はこのネズミとして来てくれたのだと思いい、「ウス



▲方言でピーチャーと呼ばれるジャコウネズミ（写真は白化しているが、普通は灰白色。）

ミー・ハー トウミソリー（おじいさん、おばあさん良い年を取ってください）と拝みました」というものです。ちなみに大晦日に天井のネズミにも良い年を取らせるために、握り飯を置く行事が喜友名や大山などにもあるそうです。みなさんの家にも良い来訪者が訪れるといいですね。どうぞ良いお年をお迎えください。

※ジャコウネズミのよく鳴く習性から吉兆に関する言い伝えがある。

## 「宜野湾市史」へのお問い合わせ

教育委員会文化課 ☎8093-4430